平成29年7月九州北部豪雨
これからの支援

～活動されている方へインタビュー～

大分県日田(ひた)市で支援活動を続けている頼政良太(よりまさりょうた)さんから被害の現状やこれから必要な支援などのお話を伺いました。

これからの現地の様子に関心を持っていただけると幸いです。

被災直後の様子

提供：被災地NGO協働センター

頼政　良太(よりまさ　りょうた)

ひ さい ち　　きょうどう

被災地NGO協働センター代表として「最後の一人まで」をモットーに、様々な被災地の復興に携わりながら地域の自立を支える支援活動を行っています。

ひ た

平成29年7月九州北部豪雨では7月9日から大分県日田市で活動を始め、9月1日に他の団体と共にひちくボランティアセンターを設立。現在でも継続的に活動を行っています。

参考：被災地NGO協働センターHP
http://ngo-kyodo.org/

Ｑ　現在はどのような活動をしていますか？

　現在でも田畑の泥を出す作業を行っていて徐々に片付けは進んでいる。11月中には作業のめどがつく事が予想される。

　また、地域の祭りが中止になり集まれる場所が無くなった。近所の人がどこでどう過ごしているのか分からないことが多いため地域の人たちが集まる機会も作っている。

家屋に流入した土砂を出す様子

提供：被災地NGO協働センター

Ｑ　今後はどのような支援が必要になりますか？

　引き続き、田畑を中心に泥を出す作業は必要。そして、地域の人たちが話し合える場所も必要。今後の豪雨の不安もあり地域から離れようか悩んでいる方もいるが、相談する場がない。

　また、この水害で支援している団体や人が今後も地域に関わって、今後同じような災害が起こった時に対応ができるようにしていかないといけない。

↑　自治会と支援者の懇談会の様子

足湯をしながら談笑する様子　→

提供：被災地NGO協働センター

Ｑ　他の地域に住む方に伝えたい事はありますか？

他人事ではなくて、どこでも災害が起こる可能性はある。
みなさんにも少しはつながっているところはあると思う。

そしてまだまだ大変な想いをしている人はいる。現地の人にとって忘れられる事は辛い。ぜひ関心を持ってもらいたいし、関心を持っている事が伝われば元気になってもらえると思う。

被災された方一人一人、想いは異なります。
再び同じ場所で農業をしたい方から今後の豪雨の不安からこの場所を離れる事を考える方まで。
道路や橋がただ元に戻ればそれで終わりというわけではなく、被災された方々が何を必要としているのか、一人一人の気持ちを考える事の必要性を感じました。

そして今回の豪雨を自分達には関係の無い事と思うのではなく、自分の身に起こるかもしれないと考え、現地の方に関心を持っていくべきだと思いました。

神戸大学学生震災救援隊代表　江藤